

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現 状 に つ い て の 評 価 ・ 質 問 な ど	災害対応という社会に直接成果を反映する必要がある課題に迅速に取り組んでいる。昨年度までに主要な開発を達成した技術・システムを今年度は精緻化して地域実装支援を進められ、これまでの国環研の地方自治体との繋がりを生かした効果的な取り組みと思う。さらに学術論文数を高いレベルで維持していることを評価する。	実務的貢献が特に求められるテーマであり、手法・システムの実装についても研究してきた。社会全体として、災害事故時の化学物質のリスク管理の重要性、衛生面での大きな課題の認識はまだ希薄な段階と思われる。自治体との演習を通じたシステムの実装・対応力強化に取り組み、今後も成果の共有と発信に努める。学術論文としての成果発信にも一層力を注ぐ。
	原子力災害という特質からして、十分なリスクマネジメントとしては、より広範な意見への配慮、とくに女性、子ども、避難中の方など、声をあげにくい人の意見がより含まれるよう工夫が必要。バイオ炭のコンポストとしての利用は植物への吸収に繋がり得る。建築建材など別の使い方も模索してはどうか。	様々な属性を持つ住民の皆様から意見を伺う機会を企画していきたい。ご指摘のように、声を上げにくい方々の意見を積極的に取り入れられる工夫を重ねる。また、連携自治体とも復興政策に市民の意見を反映させる重要性や価値の共有を進めたい。バイオ炭のコンポスト以外の用途への検討も進めたい。
	災害多発国の日本として、海外から注目され期待されている分野なので、多く情報収集されることを希望する。災害時の化学物質の流出対応などの机上演習は、蓄積された上で他に基づく対策法として良いものに改良後、早急な全国に展開を期待する。	プログラムの取り組みについてご希望、ご期待をお寄せいただきありがたい。成果の国際発信を念頭に置いて取り組んでいく。また、災害時の化学物質の流出対応などの机上演習については、改良を重ねつつより広く展開できるよう努める。
今 後 へ の 期 待 な ど	地域と協働した環境復興を実現するための多岐にわたる取り組みを積極的に実施している。提示された4つのシナリオからどのように復興の方向性を見出していくのか難しいが、地域住民が主体的に取り組むことの必要性も理解できる。これらの成果をどのように生かしていくか今後の課題とを感じる。	PJ2の成果をはじめとして、本プログラムの取り組みについて高く評価いただきありがたい。4つのシナリオについて、これまでに構築した住民・行政との接点を活用し、どのような方向性・地域の機能が望ましいかを議論する切掛けとなるよう利用し、またシナリオを修正していく。
	体系的な整理を進めながら、基礎研究と現場に即した社会実装の地域研究を遂行している取組みは大変意義がある。災害環境学の確立はぜひとも成し遂げていただきたい取組みである。	本プログラムの取り組みについて高く評価いただきありがたい。最終年度に向けて災害環境学の確立を含め研究の深化を図りたい。

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現 状 に つ い て の 評 価 ・ 質 問 な ど	大変意欲的に、また細やかに研究をされている。その上で、原子力災害は極めて広範な社会的不安や分断等を生み出しており、欠如モデル（専門家からの一方通行の情報提供）に陥らないように常に注力することが重要なトピックと理解する。リスクマネジメントの観点からも、声をあげにくい人々を含め、より丁寧な多様なアクターの意見抽出や対話が必要と考える。	多様な意見を研究に反映するために、地域住民との対話の機会を積極的に設けていきたい。関連して、政策対話の場に関するこれまでの研究レビューや、福島県浜通り地域における東日本大震災の復興過程における対話の取り組みの検証を進めている。これらの成果を踏まえ「欠如モデル」に陥らないよう十分に配慮しつつ多様な意見を取り入れる方法を模索していく。
	避難指示解除区域等の環境的復興と一般的な災害環境レジリエンスの向上の二つの柱に関する取組みは、相互に独立しているように見えるが、一方の研究が他方の研究に活かされるなどの相互作用について、より明確にお示しいただけるとよい。	重要なお指摘である。相互作用のところは必ずしも進んでいないこともあり、最終年度にはケーススタディ等を通じてその成果をお示しできるよう取り組む所存である。
今 後 へ の 期 待 な ど	福島環境復興に資する地域協働型研究の推進と、大規模災害時の廃棄物処理システムの強靱化と化学物質リスク管理に係る研究の二本柱から成っており、双方とも数多くの成果を蓄積しつつあると評価。新しい災害環境学のこれまでの成果とこれから目指す道筋をまとめた教科書のような書籍ができるとよい。	プログラムの2本の柱、それぞれの取組や成果全般について高く評価いただきありがたい。 災害環境学については、ご期待に沿えるよう成果物として何らかのアウトプットを最終年度に発信できるよう鋭意努める。
	他の機関や地域との連携が必要なプロジェクトが多い。5年間で大変多くのことに取り組み、結果を出したことについては、被災した地域だけでなく、全国的に重要で大きな成果である。次に起こり得る災害にどう生かすか、につながる研究成果である。	プログラムの取り組み全般について高く評価いただきありがたい。他機関や地域との連携をさらに進め、より一層の成果を上げられるよう努める所存である。